

第5回静岡市・清水市合併協議会

会議次第

1 開会

会長挨拶 清水市長 宮城島 弘正

2 議事

(1)協議

<議案>

議案第6号 平成11年度静岡市・清水市合併協議会事業計画(案)について

議案第7号 平成11年度静岡市・清水市合併協議会予算(案)について

<協議>

・新市グランドデザイン策定基礎調査の最終報告について

<報告>

・静岡市・清水市合併協議会だより<創刊号>

・市民意識調査報告書

3 閉会

協議会開催にあたり

事務局 定刻になりました。本日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。ただいまより 10 年度の最後になりますが、第 5 回静岡市・清水市合併協議会を開催したいと思います。なお本日は傍聴要領に従いまして、市会議員 2 名、一般傍聴 57 名、報道 10 社 29 名、計 88 名が傍聴として入場しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは会長であります宮城島清水市長よりごあいさつ申し上げます。

会長挨拶

会長(宮城島弘正清水市長) 年度末、何かとお忙しい時期でもございます。この 1 年の反省、そしてまた新しい年に向けての予算や事業、あるいは体制固め、こういったような時期でもございまして、皆さんそれぞれにお役をお持ちで、大変お忙しい中でおられると思いますが、御参会をいただきまして、まことにありがとうございます。本日で 5 回目となりますこの委員会でございますが、本日は平成 11 年度事業の概要や新市のランドデザインの策定基礎調査の中間報告などについて御協議をいただき、またその中で新年度に向けての方向づけなどもだんだん出ていくというふうに思いますが、これまで 4 回合併協を行わせていただいて、今回はこの中間報告もしていただきました。

それからそういう中で、皆さん方からこの会議の運営について、協議時間の延長というか、確保といいますか、それから部会の設置といったことも、協議を進める中で提案もされてきたわけでございます。これを受けまして初めての試みということでございましたが、3 月の 18 日に多くの委員の方々の御参集をいただきまして、事前の本日御協議をいただく議案についての説明会も開催させていただいたところでございます。また部会設置などについても、平成 11 年度の事業計画の中で御提案をさせていただくこととなっております。

本日は会議次第にもありますように、平成 11 年度の合併協議会の事業計画案、またそれに伴います 11 年度の合併協議会の予算案の諸案を御審議いただくと同時に、新市のランドデザイン策定基礎調査などにつきまして協議を進めてまいりたいと、このように考えております。いずれにいたしましても、皆さんそれぞれお忙しい方々でございますので、定刻の終了を目指しながら、皆さんの活発な御意見をいただき、実りある協議会とさせていただきたいと思っておりますので、どうぞひとつよろしくお願い申し上げます。

事務局 それでは会議に入らせていただきます。報道関係者の皆様、恐れ入りますが定位置へお戻りください。

それでは議長、よろしくお願いいたします。

議長 本日の会議につきまして御報告させていただきますが、委員が 39 名おられるわけですが、この中で 37 名の御出席をいただいております、規約第 10 条第 2 項の 2 分の 1 を当然超えておりますので、本日の会議が成立していることを御報告申し上げさせていただきます。

議事

議案第 6 号 平成 11 年度静岡市・清水市合併協議会事業計画案

議案第 7 号 平成 11 年度静岡市・清水市合併協議会予算案

議長 早速会議に入りたいと思いますが、本日の議事日程はお手元に配付してございます会議次第に従いまして進めてまいりたいと思います。

それではまず初めに議案の第 6 号になっておりますが、平成 11 年度静岡市・清水市合併協議会事業計画案並びに議案第 7 号、平成 11 年度静岡市・清水市合併協議会予算案につきまして、一括して御協議をいただきたいと思います。

内容について事務局から説明を求めます。

事務局 それでは初めに議案第 6 号、平成 11 年度静岡市・清水市合併協議会事業計画案について御説明いたします。

平成 11 年度の事業目標は主に 3 点ございます。まず第 1 点に、平成 10 年度に引き続きましての新市グランドデザインの策定でございますが、平成 10 年度に実施いたしました都市フレーム等の基礎調査を踏まえまして、平成 11 年度は新市が目指す都市の将来を展望した都市ビジョンづくりと、その都市ビジョン実現のために、初期段階に何をなすべきか、向こう 10 年間の計画づくりでございます。二つ目といたしましては、1 万項目とも言われております両市行政全般の事務事業の実態把握でございます。3 点目といたしましては、当協議会で協議いたしました内容を各種の媒体を利用しまして、最大限の情報公開に努めていくことでございます。

個々の事業は今年度とほぼ同様でございますが、運営上異なるものとして、以前より委員御指摘の(2)の新市グランドデザイン策定に当たっての部会の設置や、(4)の から の

事業ごとの事業検討委員会の設置につきまして、進捗状況や必要性に応じながら、協議会で協議の上、こういった部会、あるいは事業検討委員会を設置したらどうかの御提案でございます。

引き続きまして議案第7号、平成11年度予算案でございますが、主なものとしたしましては、協議会や部会の開催を想定しました委員報酬を初め、協議会は6回、部会は何回か想定をいたしましての報酬、それからシンポジウムの開催経費、1泊程度を想定した視察旅費、新市グランドデザインやアンケート調査委託の委託料等でございます。

以上が平成11年度合併協議会事業計画案及び予算案でございます。よろしく御審議をお願いいたします。

議長 それではただいま事務局から説明のありました事業計画案並びに予算案について、御意見、御質問があれば発言をお願いいたします。

山本明久委員（静岡市議会議員） 事業計画と連動している予算案に絡んで、意見を1点言わせていただきたいと思うんですが、11年度、今の報告だとグランドデザインを策定するということにはなっています。それで経費のところでは、その委託料として策定調査、アンケート調査という項目にはなってますが、一つはこれちょっと質問にもなるんですが、策定そのものを委託するのかどうかということなんですが、この流れでいけばどうもそういう話になっていきそうなんですが、私は10年間というそういうビジョンを協議会で協議する以上、グランドデザインそのものの策定は協議会でじっくり時間をかけて、委員の、これはいろんな形であれ、協議会の中でグランドデザインを策定していくということにした方がよろしいかと思うんです。それに絡んで若干の、基礎調査はこういう形でもう出ているわけですから、それに基づいた策定に向けた取り組みは、いろんなアンケート調査含めて、協議会そのものでやる方がいいんじゃないかというのが意見です。ですからこの委託料1,100万の計上が、肝心の部分的なアンケート調査ということであれば、その範囲を教えてください、策定そのものを含んでいるということであれば、私はこの委託料をやめて、協議会そのもので策定すべきだという意見です。

事務局 ただいまの山本委員の御意見にお答えさせていただきますけれども、全面的に静岡総研さんにグランドデザインの策定を依頼するのではなくて、ことしお願いをいたしました都市フレーム、これをもとに協議会の委員さん、あるいはアンケートの結果、あるいはいろいろな過程において各団体の市民、あるいは一般市民の方にいろんなものを、そういう要望とか御意見とか情

報を静岡総研さんに提供して、そして交互に情報連絡をしながら策定をしていくということでございますので、いうならば静岡総研さんの作業は案といいますか、したがって当然ながら、ランドデザインの策定は当協議会で決定をしていくという考え方でございます。

山本委員 今ちょっと不鮮明なところがあったものですから、再度お聞きするんですが、案は総研がつくって、最終的には決定は協議会だと、それはいいんです。決定は協議会であるのは当然なんですが、案の段階からどういう中身にすべきかということ、協議会そのものとして11年度かけてやるべきじゃないかというのが私の意見で、今の御説明だと、案をつくるまでいろんなアンケート調査は総研に委託して、案まで作成すると、総研が。それに基づいて決定は協議会にするということのようですので、私はそれじゃない方向の意見を先ほど申し上げたわけですが、今私が言ったことで、念のためにちょっと確認という意味で、そういうお考えでしょうか。

事務局 きょう都市フレームと基礎調査の報告を一応の確認をさせていただきます。そしてこれをもとに協議会の委員さんに意見交換をしていただきまして、それを踏まえて静岡総研さんに案を専門家の立場で、いろんな都市情報、あるいは全国的な情報、こういったものを加味して、協議会の意見を踏まえて作成をしていく。そういう考え方でございますので、白紙をお願いをして、それを協議会で審議するというのではなくて、情報提供あるいはお願いをする中で案を出していただく、そういうことでございますので、ぜひ御理解いただきたいと思います。

山本委員 案の作成は、協議会の意見を踏まえて、案は専門家集団の総研さんにつくっていただくというお話だったんですが、先ほども説明ありましたが、いろんなさまざまな行財政の問題なんかも加味してというような、このフレーム自身は基礎データで出ているんですが、この協議会そのものにもワーキンググループ含めて、職員の専門家集団というのはたくさんいるわけですね。ましてや行政の実態調査ということになれば、それは職員をやっぱりそれぞれの場で、ランドデザインというのは、仮に合併したらこうなるということのいわば案ですので、専門家云々ということであれば、それは協議会の中のワーキンググループ、あるいはそのもとでの両市の職員。総研さんだって県職員の方が出向されて仕事されているわけですから、専門家だから案を作成するという考えから委託というのは、私自身はおかしいと思います。

伊東稔浩委員（静岡市議会議員） 山本委員、途中から滝委員とかわられたのでおわかりにな

らないと思うんですけれども、この問題についてはもう既に淹議員のときにこの協議会で諮って、そして委託に出しているわけですので、淹議員からその引き継ぎがされてないんじゃないですか。もう既にそれは委託ということについては決定済みのことですので、今の問題の委託がどうのこうのということは、もう既に過去の問題ですから。

織田高行委員（静岡青年会議所直前理事長） 関連ですけれども、一番重要なことは、この協議会でいわゆるコンセプトを決めていったり、どういうシュミレーションしていくのかという方法論をこの協議会で議論することが一番重要なことです。ですからそれに基づいて、静岡総研さんの方でいろんな具体的なデータを出してくるわけですから、総研さんにすべて委託して、じゃすべてお願いねと出されたものが、こういうまちですよということではないわけですから、別に何ら問題はないと思います。

ここで質問なんですけれども、続けてよろしいですか。いわゆるそのグランドデザインというのは、まずコンセプトがあって、どういうまちにするんだというようなビジョンというか、そういうものがあるって、それに基づいて社会であったり、福祉であったり、教育であったり、産業構造であったり、そういう具体的な細かいものをすべてシュミレーションをしていく。それによって描かれたまちというのはこういうまちになりますよ。具体的に言えば東静岡はこうなりますよ、清水港はこうなりますよというのが、最終的なグランドデザインだと思います。そこまでいくまでにいろんな議論というのはあるでしょうし、いろんな分科会も開催していかなければならないでしょうし、どうもなかなかこの1年間を振り返ってみますと、この1年後のグランドデザインが出てくるまでのどういう議論が発生してくるだろうかと、どういうことがこれから議論されていくんだろうかというのが見えない部分が多分にあります。

例えばここに「市民アンケートの実施1回」と書いてございますけれども、例えば今言った各論に入っていきますと、さまざまな意見は出てくるでしょうけれども、じゃまずコンセプトを決めようといった段階でも、文化蓄積なのか、福祉の蓄積なのかという、それはすべてなんですよけれども、そういうコンセプトを決める段階でも市民からの要望というのは、聞く必要もあるようにも思いますし、現にこのアンケート調査をやってますから、これがまず第1段階の土台になるかと思いますが、今後どういうことをやっていくのかということが、例えば市民アンケート1回でいいのかというようなこともございますし、ですからここに書いてある「シンポジウムの開催1回」「市民アンケート1回」というのはあくまで案であって、これから発生してくるいろんな問題については、再度市民にも公表して、アンケートなり意見を求めていく可能性が

あるのかどうなのかということと、それから分科会だとか専門委員会なんかも、これから開催する予定があるのかどうなのか。もし事務局に案があればお聞かせいただきたいと思うんですが。

事務局 今の事業計画の中には、「市民アンケート1回」というふうな格好になっております。これはあくまでも事務局の考え方で、皆さんの御審議、御協議が前提でございますが、今私どもが事務局で考えているのは、今、織田委員が言ったように、ビジョンが協議の中である程度の方が協議会の中で出てきたということに対して、やはり市民に1回フィードバックしたらどうだというふうな考え方を持っております。それで次の例えば今度は計画編になるということになりましたら、その進みぐあいに応じて、例えば変な話で予算プラスアルファというふうな動きも出てくるんじゃないかなと。これも協議会の進め方に従ってまいりたいというふうな感じで今はおります。

織田委員 済みません。質問の内容が余りにも多かったものですから。それじゃここで確認ですけれども、要するにそういう例えば委員会も協議会も10回という予算ですよ。この辺もまだ回数もわからない状況だと思うんですね。この辺については随時予算であるだとか、我々のもっている報酬なんかも、例えばお返ししてもいいと私は思っているんですけれども、予算等につきましても、これで決まっているからこれで終わりだよということではないというふうに確認をとりたいと思うんですけれども。

議長 これは協議会ということで協議をして、その中でこういうことが必要であると、やるべきであるとか、そういうことになれば、当然その時点において計画を修正したり、予算を補正したり、そういうことはあり得ると。もちろん両市の市議会の御理解を得てということですが、そういう形であくまでもこの協議会は、先ほどからお話がありますが、協議会そのものがやっぱり中心となって、協議会が主体的になって進めていくという考え方でいけばいいというふうに思います。

織田委員 もう1点続けてよろしいですか。先ほどの協議会の回数とそれから分科会についてですけれども、以前村上委員から専門委員会みたいなものを開催するべきだというような意見も出ましたけれども、私の方からもその協議会が審議の場であるために、個々の、これを例えば二つとか三つに分けた、もっとかみ砕いた議論ができる場を提供してほしいというような意見も出

した記憶がございます。今後この 10 回を予定しているわけですが、この中でそういうものが開催される予定があるのかどうか。それから今の現段階で、もし分科会であるとか、専門委員会というようなものがあるとするならば、どんなお考えがあるのかということで、もし案があればお聞かせいただきたいと思うんですが。

後藤成男委員（清水市議会議員） 議事進行について。今まで一般で言われているのは、当局というか、事務局と委員とのやり取りの中で物事が決まっていると。何でも計画しているのは事務局のような感じを受けるわけですね、今の質問の中でも。そうじゃなくて、その委員会等の問題につきましても、正直言いまして、提案の形で委員会に出していただいて、この中で議論するという形をとるべきだと私思うわけです。そうしないと何だか知らないけれども、事務局が決めたことをおさらいをするような形で、指導してやっていくような形をとることが一番心配な形になると思いますので、その辺につきましても、事務局に問かけるよりも、委員の皆さんにこういうのがいいんじゃないのかなという形で問いかけていただく方法が一番よからうかと、そのように理解いたしますので、事務局、事務局というのは少しく控えてもらったらいいかなと思います。

議長 具体的な事業計画案とか、予算案を事務局が提案をさせていただいていると。そういう立場において、内容等についての質問は受けるということですが、考え方については今お話のようにこの中で決めていくと、そういう考え方でいいと思います。

それで今の質問に答えて。

事務局 ただいま後藤委員から御意見がありましたように、事務局としましても、グランドデザイン策定の過程において部会あるいは専門委員会、そういう設置の必要性があったら、この協議会で決めていただきたいと思います、そんなふうを考えております。そのときに予算はどうするかという問題につきましては、いよいよになれば流用という方法と、それから両議会に諮って補正という方法がありますので、事務局が現段階において何回開くか、あるいは設置する気持ちがあるかどうかということではなくて、協議会の中でそういう必要性について議論していただくことが大変ありがたいと思います。

内田 進委員（清水市議会議員） このグランドデザインの策定の委託と、3 番のプロジェクト

トの関係なんですけれども、要するに新しいグランドデザインの中には、当然両市のプロジェクト等も入ってくるものもあるだろうし、入らないものもあるだろうし、いろいろそれは市民の意識調査等によってつくってくるということなんですけれども、そうしてできてきたものと並行的に両市の主要プロジェクトの予定地等の視察調査をすると、こういっているわけですね。ですからその関係がちょっと私、どういうものが出てくるかということがまだわからないわけですね。あるいは出てきたときに、その入っているものもあれば外されるものもあるだろうと思うんですね。具体的に言えばそうなると思うんですよ。だからそういうところの関連というのは、一体どういうようにしていくのかなということがちょっと疑問になったものですから、お伺いするわけですが。

事務局 今までの調査で、両市の主要プロジェクトについて一応挙げさせていただきました。そして今後両市のグランドデザインを策定する過程において、現計画、こういった状況把握も協議会の委員さん方として承知しておいた方がよろしいだろうというようなことで、そういう主要プロジェクトの場についての事業計画を盛り込ませていただいたということでもあります。

内田委員 当然入ってくるものもあるわけでしょう。削られるのもあると思うんですよ。けれども、ここでは主要プロジェクトの視察をしていったり、調査をしていくと言っているわけですよ。だからその関連が、新グランドデザインができた上で調査するというならまだわかるんですけども、片方ではまだグランドデザインをつくっていく段階でしょう。けれどもそれは委託しているわけで、我々がつくるわけじゃないんだよな、委託しているわけですよ。そうでしょう。そういう中でこの両市プロジェクトを調査していくということになると、それは予備知識でいいじゃないかといえればそれまでかもしれませんけれども、予備知識だなというように思えばいいのかもしれませんが、けれども実際に新グランドデザインができてくる過程の中で、一体そういう意見がどこで反映されるのかとなれば、ちょっとその辺の関係が前後してしまうんじゃないのかなという感じがするものですから。

事務局 ちょっと申し上げますが、今年度、実態調査だとか、特定指標だとかということで、両市の状況をまず知っていただきたいというふうな資料を委員の皆さんにお出しいたしました。先般、議案説明会のときも、総研の方からさまざまな、そのときに掲載されている事業は、現財政計画の中でほぼ入っているというふうな言い方もされております。そういう中で、現実に紙面

上、こういう事業がある、ああいう事業があるという自分の市の中身のことも知らない状態で他市の状況がわかるのかということで、他市も自分の市もそうですが、その実態をよく把握して、今後 11 年度に行う計画づくりに役立てていただきたいというふうな意図で、事前に実態調査をお願いするものです。

それからもう 1 点、ランドデザインを総研に委託すると。委託するとお任せということじゃなくて、単に総研の方は皆さん方の御意見をいろいろ言っていたいただいたのを、作業的にまとめていただくという位置づけだものですから、その辺も御理解いただきたいと思います。以上です。

議長 ということ、あくまでもこのランドデザインの策定は協議会において進めると。そして皆様方の意見を反映させて、それを検討してランドデザインに反映させていくということが当然のことだというふうに思います。総研に委託をしたら、総研に委託をしっ放しで、まとめてもらって、それを議論するというじゃなくて、皆さんの意見もやっぱり反映させるということではいけないというふうに思います。その上で両市について委員の皆さんがやっぱり共通の認識を持つということも必要なので、静岡市で計画されている事業、あるいは清水市で計画されている事業、それらについてお互いに視察をするということも、これもまた議論をする上で必要なことだと。そういったようなことで、計画をここに盛り込ませていただいている。

それからここで決めたから、もう絶対に動かないということじゃなくて、再々申し上げておりますように、協議会としては新年度このような流れになるであろう。こういったことを検討することになるということにおいて、何回ぐらい協議会開くとか、分科会も必要になるだろうとか、専門委員会も必要になるだろうというふうなことを前提として予算案もつくらせていただいているということですが、それがそのとおりに進むかどうかというのは、これは予測を得ません。あくまでも皆さん方の協議会の進みぐあいによっては、いろいろとまた検討する時期もくるというふうに思いますが、この時期、こういう形で一応計画をつくらせていただき、予算を定めさせていただくということで御理解をいただきたいと思います。そんなことでよろしいでしょうか。

山本委員 議長がまとめられた後でちょっと意見というのもあれなんです、私先ほど心配していたのは 1,100 万の委託、この中身が、例えば本当に協議会が主体になって、先ほど織田さんの議論もありましたが、そのコンセプト、方法論にしても、基本的な枠を協議会のところで示して、それに必要な若干のアンケート調査等を委託する云々というのは、この間の流れですから、

ただ伊東さんの意見はちょっとそうじゃなかったわけですよ。私はそのことを言っていたわけじゃなくて、もし若干の基本的な方法論、コンセプト、あるいは中心的な命題、協議会として協議して方向性を出したとしたら、この総研 1,100 万の委託の中身というのは、具体的にはどの程度になってくるんだろうというのが、ちょっと疑問になってくるわけです。この点どういう中身を考えられているのかということで、わかる範囲があったら、ちょっと示していただけませんか。

事務局 その内容について、ただいま事務局として答えることは無理があると思います。都市フレームをもとに、将来の都市ビジョンを踏まえて、当面向こう 10 年程度の実現可能性のあるランドデザインを作成するについて、この協議会で協議をしていく、その内容について総研さんの方に取りまとめをお願いするわけでございますので、お願いするものが今決まっているわけではございません。これから皆さんに協議していただく、その内容でございますので、とりあえず予算化をさせていただいているということでございます。

議長 1,100 万で予算決めたから、1,100 万で委託しちゃうと、そういうふうなことではないということですね。皆さんのいろんな意見をいただいたり、それから考え方を整理をしながらまとめていっていただくと。最終的にどういうものになるかというようなことを予測することは、まだ今現在ではできないというふうな部分もあると思いますが、しかしある程度そういった心構え、腹構えを持っていかなければ、これは何も仕事が進みませんので、そういった意味で予算を定めさせていただき、あるいはまとめを総研に委託をしていくというふうな考え方を皆さんに御理解をいただくと、こういうことだと思えます。ということでよろしいですか。

村上達雄委員（清水商工会議所副会頭） 今の山本委員の御意見に対して、私の個人的な感想ですけれども、1,000 万円という金額でどの程度の調査ができるかといいますと、私の自分の経験則で言えば、アウトラインが出るぐらいのものだろうなというふうに思います。ですからむしろそこら辺を委員の方で細かいところを煮詰めていく。アウトラインというのは、恐らくプラン 1 本ではなくて、2 本、3 本というふうに出てくれば、それでいいんじゃないか。少なくとも両市の一般予算足して 2,000 億円を優に超えるわけです。この両市が今から合併しようというときに 1,000 万の予算が何ほどのことか。税金のむだ使いになるというほどの金額では私はないと思いますね。ですからそういう意味で、むしろそのぐらいの金額だからいいんだと。基本的なラインだけ幾つか出してもらうという程度の私は金額でしかないだろうというふうに経験的に思ってお

ります。ということでいかがでしょうか。

議長 ということで、それではいろいろ御意見もいただきましたけれども。はい、どうぞ、まだある。

佐野嘉則委員（清水青年会議所） 恐れ入ります、清水の佐野です。まとめをというところ、申しわけありません。1件だけちょっと意見といたしますか、あと御質問させていただきたいんですが、やはりこの予算書を見ますと、報償費が368万、会議費がおよそ220万ほど上がりまして、それに対して広報広聴費が96万下がったということになっていると思うんですが、やっぱり市民の目から見まして、報償費、会議費が上がって、それに対して市民に対する広報が下がったというように、これは一見すると見えると思うんですね。報償費に関しては、先ほど10回ということで算出されて、分科会であるとか小委員会、私の意見なんですけど、そういったものはぜひ報償費がかからないような方向でお願いしたいというのと、もう1点質問ですが、やっぱり広報広聴費が下がったところの理由といたしますか、どのような形で補っていくのかということも明確にお話しただけたらと思います。以上です。

事務局 まず会議費ですが、協議会がよりきめ細かく協議をしていただくということで、前は5回であったわけですが、今回は6回以上、プラス部会だとか検討委員会ということで、この協議会の中でいろいろな多面的な協議をしていただきたいというようなことで、これは金額がなっております。

それから広報広聴費でございますが、皆さん方きょうお手元にありますが、全世帯にお分けしてある特集号がございます。これは協議会経費が1万部分の経費しか入ってございません。あと残りの二十数万部については、両市が世帯数に応じて、これは市の予算としてとっております。そういう意味で、この金額だけで広報広聴をやっていこうということではございませんし、本日両市の広報課の職員もこの中に来ております。1月後あたりには広報しみず、広報しずおかがこの内容を、去年もやっておりましたが、逐次情報公開しております。そういう意味で協議会経費だけじゃなくて、市の既存の予算を使って、この協議会の様子をPRと申しますか、情報を開示していくということで心がけた金額でございます。以上です。

議長 ということで、事業計画案と歳入歳出予算案については、提案のあったとおり、一応決

めさせていただき、そしてなお今後においていろんな問題が出れば、皆さんの御意見をいただいて、また補正修正等もあるということで、御理解をいただいて進めさせていただきたい。こんなことでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と言う者あり)

新市グランドデザイン策定基礎調査について

議長 それでは一応この件については以上にさせていただきます、一応本日の一番のメインテーマということになると思います、来年度策定の新市グランドデザインの基礎となる調査の協議をお願いをするものでございます。

これは新市のグランドデザインづくり、先ほど来いろいろありますが、そしてそのグランドデザインの中で都市ビジョンと、それから具体的な計画というふうなことが、少し一緒になっているような感じもいたしますが、いずれにしても新市のグランドデザインとして、新年度において決定をしていただくための基礎となるというふうに思います。現段階における一定の大筋、大枠の了解、きょう決めるのは一体何だということになりますから、基礎調査というのは、来年度グランドデザインをつくるに及ぶ一番その基礎となる現段階における一定の大筋、大枠の了解、このようなことになるのではないかと。そういったことについて、委員の共通認識を得た後に、次のステップである具体的な計画づくりに向かうというふうなことで、この基礎調査の協議をきょうお願いするというところでございますので、よろしくお願いをさせていただきます。

それでは事務局から説明をお願いいたします。

事務局 新グランドデザイン策定基礎調査につきまして御説明いたします。

この基礎調査につきましては、前回の協議会におきまして中間報告をさせていただきましたが、このたびはほぼまとまった形で委託先の静岡総研さんから報告があったものでございます。この新市グランドデザインにつきましては、御案内のとおり、将来の静岡地域発展に向け、どのようなまちを目指し、どのようにつくっていくかの客観的な協議材料といたしまして、今年度と来年度にかけて策定しようとするものであります。特に今年度はその実現性を高めるため、都市を構成している基本的な人口、経済、土地利用、そして財政の四つのフレーム、これは目安となる一定の枠組みでございますが、この四つのフレームを両市の現状を踏まえながら、計量的な予測や時

代の変化への対応、さらに政策的視点を加味しながら、可能な限り科学的に予測した結果を取り入れたものでございます。そして来年度はこの枠組みを尊重しながら、本格的な都市グランドデザイン策定調査、将来を見据えた都市ビジョンと、それを受けたところの実現可能性の高い向こう10年間の計画づくりに取り組むものとしているものであります。

なお、本年度策定いたしましたこの基礎調査は、現時点で絶対的なものとして位置づけるものではなく、来年度策定する新市グランドデザインづくりに向けましての段階における枠組み、目安として、委員の皆様方の共通認識とするため策定したものでありまして、このことにより比較的实现性の高い静清地域のまちづくり計画が可能になると考えております。繰り返し申し上げますが、この基礎調査の協議会としての最終決定は、平成11年度、来年度実施する計画づくりが完成するとともに、最終的に決定されるものと考えているところでございます。

なお、前回の中間報告と異なるところでございますが、人口フレームを71万人に設定しましたことと、財政フレームについて記述したところでございます。以上でございます。

議長 既に皆様方には18日に協議会の方々に説明会をやらせていただいたというふうなことで、大変熱心にやっていただいたというふうにお聞きをしております。内容等についてはお聞き及びだということを前提として、事務局からは簡略な説明にとどまったわけでございますが、改めて申し上げるまでもないと思いますが、11年度に策定をしようとしております新市のグランドデザインは、静清地域の将来の目指すべき都市ビジョンと、それを実現させるための初めての段階と言える10年計画の計画づくりというふうなことになろうと思います。

都市ビジョンは別として、この計画をつくるに当たりましては、当協議会として両市の市民に責任ある計画づくりを行うことが不可欠であるというふうに思います。何のそういった計画や根拠もなしに、単に夢や希望や、絵にかいたモチを示すということではなくて、可能な限り実現性の高いものでなければいけないというふうにも思います。

そのためには10年度は都市構成の基本となる説明のあります四つのフレーム、人口、経済、土地利用、財政、こういったフレームを計画づくりの前に、一応きちっと策定をして、委員の各位の一定の枠組みとしての共通認識を得た後に、そして計画づくりを進めていくということが、実現性の高い計画づくりが可能になる、また協議もしやすいというふうなことになるということでございます。そういった意味でこの基礎となる大事な部分でもございますので、これから皆様方に御意見や御提案をお願いしたいと、このように思います。どうぞよろしく願いいたします。

村上委員 新市グランドデザインの策定というものに当たって、私は基本的にこういうふうにお願ひできないかと思ひますのは、御承知のように、日本は今、古今未曾有の混乱にあります。21世紀の求められるべき都市像というものがはっきりあるはずで、それは政令指定都市であるかもしれないし、中核都市であるかもしれません。しかし合併するとなれば、とにかく人口70万くらいの、日本でいってもかなり大きい都市というものができ上がります。こういう都市の求められている都市像というのが、今から財政がやはり困難になり、より多くの犠牲が市民に強いられ、企業も同じようなものだというようなそういう世の中の中で、基本的にこれは日本のどこであろうか求められている都市像というものが多分あるはずで、それらは例えば今まで政令指定都市の中で、政令指定都市の雄とされてきた例えば神戸であるとか、横浜であるとか、あるいは福岡であるとかいう都市とは違った都市像というものが多分求められているはずで、そういった都市像というものを一つ根本的に置いて、我々はもし合併するとしたらどういふ都市像を求めていくのか。その都市像そのものが21世紀の競争に耐えられるかどうかということ、これをまず第1に据えていただきたい。

第2に、そこに静岡と清水という地域の特殊性というものをどのように加味して、それらの我々が持っている資産というものをいかに有効に活用して、他都市との差別化を図っていくのか、個性化を図っていくのかということをはっきりさせる。したがってその2点をポイントにグランドデザインの策定というものを願ひしたいというふうには個人的に思ひます。以上です。

議長 村上委員から今御意見がありました、他の委員さんの御意見もありましたら、積極的に発言をお願いします。

内田委員 両市のプロジェクトにこだわっているんですけども、両市の主要プロジェクトというのは、その都市、例えば静岡市なら静岡市、清水市なら清水市というもののの中で、そういう中で計画されたものですね。したがって当然合併すれば必要のないというか、見直さなければならぬプロジェクトが当然出てくるわけですね。それからまたどうしてもやらなきゃならないプロジェクトもあるだろうし、そういったプロジェクトの整理というのが、一体行われるのか行われないのかなというのが、実は私大変この辺のところは気になっていることなんです。

要するに、もうある程度進んでいるプロジェクトもあるし、全然進んでないプロジェクトもあるし、いろいろあるわけですね。進んでいるのは進んでいるので、じゃどうするのか。あるいは進んでないものはどうするのかという整理をどういふ形でしていくのかなということが気になっ

ているんですが、そしてまたそのことがどういう形で組み込まれながら、新グランドデザインが、新しい都市像というのができてくるのかということだと思うんですが、その辺のところというのは、やっぱりここで徹底的に議論をしていかなきゃいけない問題ではないのかなというように思うわけです。それが何となくその辺がさっと通ってしまって、全部足せばいいじゃないか、足して今のところやっていくという考え方ですから、そうすれば財政的にも大変これは幾らあっても足りませんし、財政フレームのところでも、この間の勉強会の中では約 80 億しか使えない。これは内輪に見積もっているかもしれませんが、そんな中でとてもこんなプロジェクトが全部やれるわけではないわけですからね。そういうようなことの徹底した議論というのをどこの場でやっていくのかな。今この場でやっていくのかなということになれば、私はもう少しこれを整理して、提案していく必要があるんじゃないか。

だから逆に言えば、今あるプロジェクト全部出してみても、一体新しい都市になったらどこどこが必要で、どこどこが要らないのか、あるいはもっとこれは大きくしなきゃならぬのかというようなことをやっていくための基礎調査といいますか、その資料というのか、そういったものを早急にやる必要があるんじゃないのかなというように思いますけれども、どうもその辺が明らかでないものですから、今ここでやっちゃえば、私は私なりの言い分はありますけれども、だからちょっとその辺がわからないものですから。

副会長（小嶋善吉静岡市長） ちょっと申し上げたいんですけども、今我が静岡市もこの 4 月から新しい総合計画が始まるということで計画をつくって、3 年間分の実施計画を発表したところなんですけど、まず我々がつくっている市の総合計画というのは 90%以上達成しますので、ですからやれるかやれないかというものは、大体計画に入れないんです。それが普通だと思うんですけども。それで、さっきから内田さんがおっしゃっている新グランドデザインと総合計画との整合性ということなんでしょうけれども、それはやはり静岡も清水も、清水市も今総合計画が進行中だと思いますけれども、それなりの議論をして採決してきた総合計画は、これはやっぱり最優先すべきだと思います。静岡もそのつもりでいます。

ただ、全体のグランドデザインもどこまで細かくやるのかは、また別問題としまして、両市がやはりずっと財政的にも準備をし、市民のコンセンサスを得る努力をして積み重ねてきた事業はたくさんあります、今やっているものも、これからやろうとしているものも。やはりそれは最優先をしていくべきだと私は思うし、もし両市が一緒になった場合どういうことをやろうかというのは、その上での話だと私は思っています。そうでないと実施計画を私どもが議会や市民の皆さ

んにお示しするときは、これは必ずこの年度内にこういうふうにやりますということで、お話ししているわけですよ。財政的な裏づけもちゃんととってやっているわけですから、ですからただそれは静岡又は清水の中での完結的なものを作っていくんだということになりますけれども、今度両市と一緒に新しいものをつくっていかうということになりますと、これはやはりまた別な話というふうに考えてもらいたいです。

ですから、この前の説明会でも合併を想定した場合には、どの程度財源が浮いてくるか、それをどのように両市のために使っていくかというようなことに、これから最終的になればですよ、そういう話になるのではないかな。ですから両市でつくられた総合計画というものは、やはりこれは我々としては、余程の困難がない限り実施していかなければならないというものだと思っておりますので、グランドデザインをやるときに、一緒になったらこれが必要になるかならないか、それはやはりかなり例外的な話で、もし一緒になるなら、これはやめてもいいんじゃないかというのは、それはまたその部分を準備してきた議論を今度全部なしにするわけですからね。それは非常に珍しいケースというか、そういう場合があったならば、それはそれでその部分を議論しなければならないじゃないかなと私は思うんです。というつもりで我々は今やっています。

内田委員 今、小嶋市長に言われたことを私は基本的にはそのとおりだと思うんですよ。だから私は今質問しているわけなんですけど、そうしますと例えば清水の人工島構想なんていうのは、これは大分調査費を随分注ぎ込んだんですが、現実的には凍結のような状況になっていますよね。バブルが弾けた以後、これが果たして実現性があるのかなんのかということについても、これは常識的に考えればほとんど無理だろうというように私思うんですよね。こんなものまで入れていいのかどうか。だからもちろん、いや、それまで入れるくらい大規模な都市をつくって、こういうふうにしていくんだよというのがあれば、それはいいんでしょうけれども、今考えていますそういった沖合人工島構想まで、あるいは静岡の新都市の中に入れていくというのは、これは不可能だろうと私思うんですよ。そんな財政的な余裕もないだろうし、それからまたそれをもとにした、もし例えばそれが必要だというものの都市像というのはどうなっていくかということになりますと、これはけたが違ってくるだろうと思うんですね。そういったものを含めますと、これ相当私はあると思うんですよ。基本的にはそれは両市のプロジェクトが必要だったんだからやったんだから、それは当然入れるのはわかるんですけれども、一つ一つ点検していけば、私はあると思うんですよね。

そしてまた確かに静岡市さんの方は、もう 90%ぐらいできているんだよ。大変私の方はまだま

できない部分がたくさんありますからね、そういったのはではどうするんだということになれば、もっと具体的に私申し上げますけれども、じゃ清水の方がいろいろプロジェクトを組んでいますけれども、進んでない部分がたくさんあります。静岡市さんの方は、もうとにかく90%ができていたといたしますと、その格差はありますよね。一体そのプロジェクトをどういう面倒を見ていくのか、あるいはどういうようにしていくのかと具体的に今度はなってきたときに、やっぱり相当総合計画の中でそれがどう位置づけられてくるかということが私はあると思うんですよね。

だからその辺が明らかになってきて、その辺が具体的に議論していかないと、どうも何となくムードでいってしまっていていいかな。一つ一つやっぱりこの場で点検していく必要があるのじゃないのかなというように私は思うんです。

青島広幸委員（静岡商工会議所副会頭） 委員の方の御意見を拝聴してますと、何かこの清水でつくられた総合計画はできないものばかりを並べているんだ、だから新しい合併した都市になってもできないんじゃないかという御心配のようですけれども、やはり各市でおつくりになったものは、現時点としては、それはそれとして厳然として進めようという意欲のもとに、また市議会でもそれを御承認なさっているんだらうと、我々わかりませんけれども思います。ですから今あんまりそういう細かいことを怖気を振るって、それで何かかんかでなくて、今までの両市が一緒になったら、こうこうこういうことですよというのが、きょう出ている基礎調査ですね。

ですからこれをベースに我々は将来こうしていきたいんだと、先ほど村上さんもちょっとおっしゃったように、私は政令指定都市に向かうのか、それもやらないのかということによっても、全然将来の大きさとか、そのあれが違ってくるんじゃないかということを思いますので、これから我々そういう議論をしていくわけですし、皆様方がお出しになっている現在つくられているそういった総合計画的なものは、それはそれとしておやりいただく最大限の努力をなさりながら、何年を目途にこれを合併し、今後こうしていくんだというときには、そのときこれは必要か、これは不必要かというようなことが出てくるんじゃないかなと思いますので、どうぞもうちょっとダイナミックに議論を進めていかれるようにしていただきたい。そんなことをお願いいたします。

副会長 私も市長で、皆さん議会の方だからわかると思うんですが、一つ一つ議論して決めてくるわけですよ、総合計画というのは。ですから今おっしゃったように、できるできないというのはたくさんあるとおっしゃっていましたが、やっぱりそれは議会がチェックすることだ

と思うんですよ。この協議会で、できるものでできないもの、協議会でそこまで将来のその事業を縛る権限はないと思うんですよ。ですから、今の時点でできそうもないものをグランドデザインに入れるのか入れないかという議論をここでしろというのは、ちょっと違うと思うんですよ。それはやはり、恐らくその総合計画の見直しも進行途中でやるわけでしょう。そのときに、清水の方で、これはちょっともうやろうと思ったけれども難しいからやめておこう、そういうことを清水の方でやることじゃないか、議会と御当局の間で。この協議会の場でそういうことまで踏み込んでやることじゃないんじゃないかなと私は思うんです。

松浦徳久委員（静岡市社会福祉協議会会長） 非常にいきなり話をどう考えますかと言われても、話が大き過ぎちゃって困るわけです。それで先ほど村上さんですか、お話があったように、求められる都市像というようなことなんですが、これで今までフレームについて幾つかのフレーム、人口フレームとか土地利用のフレームとか、そういうお話を伺って、データも今まで私どもの知らないような数字もたくさん出てきておりまして、これをお話を聞いたり読んでみたりして、それぞれ委員の方が考え方がいろいろあると思うんですね。それで合併に向かってそういうフレームの問題個々について、これ進め方はどうなんですか。もう少し細かい、今のような総合計画でこうしたからどうだというような、そういう余りにも生々しい具体性じゃなくて、ここで提示されたいろんな輪郭を委員がどうとらえて、合併をした場合との関係でどう考えるのか、そういうような、もうちょっと的の絞ったことで、皆さんの御意見を一つ一つ積み重ねていったらどうなのかと。それでないと話はあっちへ行ったりこっちへ行ったり、一向に前へ進まない、そんなふうに思います。

後藤委員 今お話がありましたとおりでございまして、今の段階ではグランドデザインのことを議論する段階ではなくて、その基礎の問題について今議論している段階だろうと思います。そのときに清水市の進捗状態がどうだ、静岡がどうなんていう議論は、もう今する時ではない。正直言って理解いたします。そういうことですので、先のことはやらないで、今やるべきことを議論していただかないと、前と後ろでごたごたになっちゃって、話があっちへ行ったりこっちへ行ったりしますので、その辺整理していただきたいと思います。

望月厚司委員（清水市議会議員） 具体的な部分で基礎調査が出されてきて、前回の中間報告のときでは、人口フレームが四つに分かれていましたけれども、今回 71 万ということで、目標

人口を設定をされてきております。その目標人口達成に向けての取り組むべきいろいろな施策というものも、具体的に何項目か出ております。清水市もちょうど総合計画が完了というか、終了にきているんですけども、10年前に清水市も24万2,000ぐらいのときに25万という目標人口フレームをつくりまして、それでやってきたんですけども、現実的には産業とかいろいろなことがありまして、24万を割ろうとするような状況下になっております。そうした中で今回静岡・清水を合わせて71万というような人口目標設定をされました。

それぞれの施策を見ても、大変こうしたことが具体的に現実化すれば、そういうことが可能だろうということでもありますけれども、それだけに先ほど村上委員の話もありましたし、また都市グランドデザインをつくる時には、相当そういう意味での意気込みなり、あるいは意識をどう植え付けるかということが大変大事なこと、この人口フレームを見ても、清水のその総合計画の10年間の経過を振り返って、改めて静岡と清水が一緒になるうとするときの人口設定を見ても、相当の熱意と相当なグランドデザインに対する意識を持って取り組まないと、これは人口目標に対して、なかなか設定に対して、その目標というものが難しくなりますので、やっぱりそういう意味でそれぞれ委員がこれに参画すべきというように思います。意見です。

鈴木和彦委員（静岡市議会議員） ですから今いろんな意見が出ているんですが、これはあくまでも基礎調査の結果報告といいますか、人口フレームを71万に設定した経過、それから経済のフレームがこういう経過というのが、だんだん載っているわけですね。それで一番最後の35ページに新市のグランドデザインの策定に向けてこういう4項目が載っています。ですからこういうことを踏まえて、新しいグランドデザインに向かってやっていきたいと思いますというまとめですので、今ここでいろんな議論をすることよりも、この基礎調査をそれなりにみんな頭の中に入れていただいて、そして新しいグランドデザインに向かって、先ほど来年度の事業計画を承認をさせていただきましたので、そういう方向でよろしいんじゃないでしょうかね。ですから一番最後の新市のグランドデザインの策定に向けてという集約のところを、この基礎調査がまとめてくれてありますので、この辺のことをしっかり頭の中に入れて、今後とりかかっていけばいいのではないかな。今言ったような具体的な問題というのは、それぞれ、うちの市長から話がありましたけれども、各論は各論として新グランドデザインの中に折り込んで、そしてその先10年というものを見越してやっていこうということですので、恐らく村上さんが言ったように、基本的なものしか出てこないと思いますので、その中で議論をしていけばいいのではないかなというふうに

思います。

石川たか子委員（静岡市教育委員会委員） 意見です。静岡市の石川です。私いろいろとこの新市グランドデザイン、市民意識調査報告書資料編とか、報告書とか、いろいろ書類をいただきまして読ませていただいた中で、一番感心したのはこのアンケート調査なんです。私は何かアンケート調査をするというときに、このような設問ではアンケートに答えてくださる方は少ないんじゃないかというような意見を言った覚えがございますが、その回収結果を見ましたら、全体で52.4%ということで、これはかなりの高率の回収だとちょっとびっくりいたしました。それでほぼ静岡と清水が同じなんです、その中でアンケート自由記載欄というのがありまして、それがこの報告書の中の41ページからずっとあるわけですね。これだけの両市民の方が本当に真剣にこういうアンケート調査に答えてくださったということは、やはり両方の市民の皆さんの非常に意識が高いということを感じました。

それで一つ提案というかあれですけども、先ほど委員さんおっしゃっていましたが、
「新市グランドデザイン策定に向けて」というこの35ページの基礎調査のまとめですね。要するにこれでまとまっているわけですが、この中に私は、何というですか、こういう新しい都市をやっぱり支えていくのは、例えば合併したということで、それを支えていくのは、やはり一番大事なものは人だと思います。それで合併議論をしていく上に、本当に必要不可欠なことは、やはり住民も意識を変えていくという必要性を私は考えるんです。特に私静岡ですけども、江戸時代からのお上に頼る意識が非常に強い土地柄なんですけれども、やはりこれからは行政にあれやれこれやれだとか、それから議員の方々に道路つくってくれだとか、どぶ板かえてくれだとか、そのような依存するんじゃなくて、やはり住民一人一人が自立の精神を持って新しい都市をつくっていくという何か気構えが、住民自身にも必要だと思います。

それで例えば一つなんですけれども、生活者の立場として、今資源の問題ありますけれども、そういうのも例えばリサイクルだとか、ごみの収集だとかありますけれども、やはり今静岡市の場合、週に2回来ていただいていますけれども、ああいうのも非常にサービスがいいと思うんですけども、やはり住民一人一人がリサイクル考えたり、ごみを減量するとか、それから何かいるんなやることでも、市民がボランティアでどんどん参加するだとか、何かそういうような新しい都市に住む住民に求められるような意識だとか行動とか、何かそういうものをこのグランドデザインというのかどうか分かりませんが、何かそんなような項目も付け加えていただきたいなと思います。まとまらなくて済みません。

村上委員 今、石川委員がおっしゃったことが、大変私は重要だと思うんです。それこそガバナビリティについてのお話をなさったんですが、私が一番危惧しているのはその辺で、実は都市が大きくなると一般的に住民のガバナビリティというのは落ちっこっていくという傾向があります。例えば東京あたり行きますと、住民のごみに対する意識とかそういったものは低くなる。小さいコミュニティへ行けば行くほど、比較的そういう住民意識が高いわけですね。今からやっばり、より住民がみんなのためによき市民となると、で行政もそれに応えるというまちづくりをしていかなきゃいけないと思うんですけれども、そのためには単に大きくなればよいということではなくて、都市の形として、先ほど副会長がおっしゃいましたけれども、大きくなることによって経費の節減というのができるということは確かだと思います。大きくなることによって、そういうふうな経費を節減する一方で、住民一人一人に対しては単に大きくなったという都市ではなくて、住民一人一人に対しては、むしろ小さなコミュニティが持っているようなフェイス・トゥー・フェイスの行政サービスというのが展開できるというまちづくりをしていかないといけないんじゃないかというふうに思います。

ですから私はランドデザインの根幹には、一つには先ほど申し上げた 21 世紀に求められている都市像というのは、そういったところを加味したものでないと多分いけないはずだと。でそれらに正直申し上げて、こういうことを言ってはほかの都市に申しわけないけれども、そこら辺で例えば失敗したのが神戸で、神戸あたりでは例えば長田地区の皆さんというのは、今までの行政のあり方に対して大変な反発をなさっている。横浜もしかりだ、大阪もしかりだ、福岡もしかりだというような面があると思います。そうでない都市づくりというものをスケールメリットとコミュニティサービスというものをフェイス・トゥー・フェイスで行うというのをどうやって両立させていくかということを中心に置いていただきたい。その辺からランドデザインのおぼろげながらフィギュアというものが出てくるのではないかというふうに思っております。

後藤委員 アンケートとか、この策定の基礎調査見まして、私相当自分の認識と違っていたなということがたくさんあるわけなんです。ですから清水に住んでいまして、市民と私の考え方で相当のずれがあるということをよく理解できまして、もっと勉強しなきゃいけないというのの一つの理解度になって、大変ありがたかったなと、そういうように理解いたします。それと同時に、その理由がどこにあるのかなというのが若干わかりかねる点もあるわけなので、今度アンケート調査等もしていただく中で、どうしてそういう結果になっているんだろうという点について

も、市民の声を反映させるというか、聞いていただけたらありがたいなど、そのように考えます。

山本委員 今新しい 21 世紀の都市像という話も、私どもこの確かに合併した場合のこういう都市フレームというのは、こういう分析の仕方もあり得ると思うんですが、その都市像そのものをどうするか、都市づくりどうするかということでいけば、私はどうも合併論で迫るよりは政策論で迫るといところの方が、よりリアルなんですね。これ、確かに仮に合併した場合の都市のフレームということで出されているわけですが、そのフレームそのものが、合併したらこれができる、これをしてほしいといところがはっきり出てこないんですね。フレーム段階だからそうだという意見もあるかもしれませんが、それはだから政策論で解決できるんじゃないかという見方がやっぱり一方であるから、そういう受けとめに私自身はどうしてもなってしまうんです。

それが一つと、この財政フレームを今回改めて出たんですが、私も議案説明に出席できなかったものですから、10 年間で投資が大体 800 億程度の見込みというふうになっているんですけども、これも合併による増加額が約 38 億という推計が出ているわけですが、この投資額そのもの、新市をつくっていこうという場合、非常にたくさんの課題を解決していこうという議論になるとしたら、34 ページでも強調されているんですけども、建設事業費がふえる予想があるという、これは間違いなく大幅にふえるんじゃないかと私は思うんです。だから 800 億という推計ですが、私、泉と仙台のを見た場合、あのときは 5 年間の建設計画ですが、合併財政規模の半分が事業費になっていたんですね。だからこの静岡・清水の場合も、少なくとも四、五百億はふえることになってくるんじゃないかと、提起されている課題を解決するということで見れば。そうなってくると、じゃその財源どうするんだという話にもなりますから、この合併でフレームを提起して、しかしここうまく「予想される」ということで抑えられてはいますけれども、いざそうなった場合、都市づくりそのものが成り立つのかという、そもそも論にも私は行き着くんじゃないかということで、投資額総計 900 億程度、さらに増加されるといところの一定の見通しが出されてない段階では、こういう財政フレームそのものはちょっと危険じゃないかなというのが私の印象です。

大多和昭二委員（静岡県総務部理事） 皆さんの御意見伺っていると、ちょっと幾つに区分した方がいいんじゃないかなと思うんですが、特に山本さんのお話を聞いていますと、今のお話は、これは合併協議会における建設計画の議論になってしまうんですよ。つまりどういう投資でどういうふうに、合併するとこういう経費がかかりますよというのが、たしか今回のこのグランドデ

ザインの議論のスタート台ではなくて、先ほど村上さんもおっしゃっていたんですが、それが10年先をきちんと想定するかどうかは別として、例えばこの前のセミナーのときに佐々木先生じゃないですけども、2050年ぐらいの50年ぐらい先を考えないと、この地域の将来展望なり、夢なり、あるいは方向性は出ませんよという意見もありました。

つまりここで議論するのは、今のグランドデザインの議論というのは、将来どんなふうなこの地域にしたいのかと。あるいは現在の各種のポテンシャルとか、いろんな書かれ方もありますけれども、あるいはこういう事業計画もありますが、もろもろを含めて現状認識はこうだよと。それを今回、現状認識はいいのかどうかということが、今回の報告書のまとめだと思うんですね。その次に、この現状認識の上に立つと、来年の事業計画にありますけれども、どういうこの地域にしたいのか。合併をしたいのかじゃなくて、地域にしたいのかということを経験しましょうよと。

その上で、それが果たして可能なかどうか。極端に言えば、いや、この地域は非常に気候もいいし、交通の便もいいので、国連を持ってきて、ここで世界の政治の基地にしましょうなんて絵をかいたって、それは無理じゃないですかということと同じで、ある程度現実性に立った上で、やっぱり将来の方向づけをしましょうよというのが、このグランドデザインではないのか。その上で、じゃそうなったときに、今おっしゃってますけれども、財政投資力があるのかないのかというのは、今回出てきていただいているのは、通常の今までの財政システムと違いますか、財政制度に乗っかると、あと、これは80億とか何十億ずつじゃなくて、10年ぐらいで800億なり1,000億の新たな投資可能性が出てきますよと。その新たな中をどういうものの配分してどうするかというのは、その将来のグランドデザインなり、都市像があったときに、じゃどこに重点配分するのかしないのかというのが、次の段階で出てくると、これが建設計画になってくるんじゃないかということで、全く合併しても疲弊してお金がなくて何もできませんよということではありませんよというふうに、この本日のレポートは受けとめて、その議論を進めていったらよろしいんじゃないかなと思うんですね。

ちなみに、先ほど村上さんもおっしゃっていましたが、その中でいくときょうお手元の17ページ、せっかく先ほど来出てますけれども、SRIの委託先の方が一つの提案としてこういう方向ではないかと書いていただいている17ページに「静清地域の基本的な方向性」というのを4項目ですか、わざわざゴシックでまとめていただいと。これはある面ではバラ色ですばらしい将来性だけを書いてあるのかもしれませんが、こういうものの方向性がいいのかどうかと。いや、これにはまだこういうことを加えた方がいいんじゃないか、これはいうならば夢を描

き過ぎだとか、そういう位置づけはちょっと難しいとか、いや、これじゃちょっと不足なんだとかいう、この辺の議論が出てくると思うんですが、例えば 17 ページの都市フレームの項目に書いてありますが、将来方向としてはこういうような 4 項目に当たるような都市像を描いていったらいかがでしょうかというのが、きょうの提案の一部でもあろうかと思うんです。ですから財政フレームの方は、前回の勉強会でもありましたけれども、これはあくまで実現可能性の程度を示す、いうならば現在の両市の財政的な力の展望をしたということにすぎないのではないかというふうに私は認識して、先日の説明会を受けたつもりですが、いかがでしょうか。

松浦委員 私が先ほど言ったことは、今の委員さんがお話になっていただいたことと同じ趣旨のことを申し上げたんですが、言い方がまずかったんですが、話が非常に広がっちゃったり、縮まったり、いろいろになりますので、こういうことで先ほど人口フレームと言いましたけれども、将来的に 70 万ちょっとぐらいのところ、このまま両市が合併しないでいったらどうなっちゃうのか。もし一緒にいったら 70 万でとまるのか。静岡の場合言いますと、もう若干減少傾向にあり、清水はもうちょっとの勢いで減少していると。焼津、藤枝地区はむしろその間にかかなりのパーセンテージで人口が増加しています。それは静岡のベットタウンとしての要素がかなり強いわけですがけれども、その人たちをまた引きつけるだけの都市の魅力をつくることができないのかと、そういうことと、それから静岡市の場合ですと平坦地が 7% しかない、これ以外にもう広げ方法がないのかとか、そういう少し具体的な話を盛り込みながら、将来像を、ここに書いてあるようなことを考える、それを皆さんがどういうふうに考えているのか。私は考えるというような具体性に富んだ話が基礎になって、将来像を描いていただきたいというふうに思いますので、その辺のところを議長さんの方で少し整理して、お話をまとめていただけると、前へ前へと順次行くんじゃないかというふうに思っておりますけれども。申しわけありません、こんなこと言いました。

外側志津子委員（しずおか女性の会代表） 静岡の外側です。今、議長さん方から別の方向でお話をという松浦委員のお話がありましたので、その前に一言、これ感想というようなものかもしれないけれども、去年この合併協議会が始まりましたから、私たちは女性団体の代表ですけれども、そこでいろんなお話を、自分なりのお話をしたり、うまくできませんでしたがけれども、でもそれなりの、でもどうしても皆さん方にはよくおわかりにならない。言っている私もよくわからない部分があったからなんでしょうけれども、でもまたその女性団体だけではなくて、ほか

のいろんな、私も関係している団体とかいろんなグループで、この合併問題のお話をしても、皆さんほわーんとしたようなところが非常に多うございました。意見を出そうと思っても見えないというところから、どう意見を出していいのかよくわからない。とどまるところは損が得かという表現しかできないじゃないかと思えますけれども、でそれもよくわからないと。

先般このような協議会のところからできまして、両市の各世帯に全部この「協議会だより」というのを配布していただいたわけですが、これが行きましてから非常に変わったなど、私自身は感じています。皆さんはそれをごらんになって、改めて自分の市、そして隣の市、ずうっと一緒にいたような市なんだけれども、電話の局番だけが違って、あれはどうなのかと思っていますけれども、それでも隣でありながら、よくわかっているようで、ほとんどわかってなかった。市のことを非常に細かくよくわかってきた。その上で、合併問題というのを自分の頭で考えようとしている分野がものすごく出てきたなど。これは一つの進歩、合併するかどうかというのはこれからの問題でしょうけれども、一つの大きな進歩だったなど。自分を知って、また相手のことも少しわかってくる。これがますます今後進んでいくんだろうなど、そんなように私自身は感じております。一つの感想として述べさせていただきました。

議長 ありがとうございます。まだ時間が十分あるんですが、少しここで休憩、トイレタイムということにさせていただきたいと思いますが、再開を2時半ということにさせていただいて、10分少々ですが休憩をさせていただきたいと思います。

〔 休 憩 〕

議長 それでは休憩前に引き続まして、また会議を再開させていただきたいと思います。いろいろ御意見もございましたけれども、それから松浦委員さんから進行などについての御意見もございましたが、本日はあくまでも11年度に策定をするランドデザインについて、静清地域の将来ビジョンを定める都市ビジョン、それを実現するための初段階とも言える10年間の計画づくりということになるのですが、この都市ビジョンは別として、計画をつくるに当たりましては、当協議会として両市民に責任のある計画づくりを示すことが不可欠である。根拠もなしに夢や希望を与えるだけはいけないということから、その10年間の計画をつくるための都市構成の基本となる四つのフレームづくりを計画づくりの前に策定をして、委員の皆さんの共通認識のもとに、一定の枠組みとして示す。そしてそれで計画づくりに進んでいくということです。

それで前回は、その中で人口フレームについては、おおよそ 71 万人というふうなことについての御了解をいただいたように思っています。今回初めて財政フレームがそれに加えて示されてきている。財政フレームについての見方もいろいろ御意見がございましたが、合併による財政メリットというのを、これどう見るかわかりませんが、一般的には余り財政メリットが少ないのではないかとこのようにもつながりかねないというふうにも思っていますが、現在の静清地域においても、清水市分の中核市移行による事務経費の増額支出により、マイナスになる可能性もあるわけですが、70 万以上の都市は交付税の算入割合の利率がふえるというふうなことから、かろうじて三、四十億の年間の財源が生み出されるのではないかと、こういうことになっている。ここでの財政フレームは現段階において、可能な限り現実に近いものを予測したもので、地道に現実を見つめて、合併目的に踏み込んだ中で計画づくりを考える必要があるというふうにご考えることから、こういったフレームづくりがされてきたというふうに思います。また両市が一つになるとすれば、現状の市民サービスは最低落とせないということを前提に、効率とか効果的な財政運営に大きなメリットを見つけ出せる面もあるというふうにも思います。

また、11 年度作成を予定しています新市のグランドデザインの策定に当たっては、既存のプロジェクトの効果的見直しなども含め、さまざまな角度から皆さんの英知を結集して、都市ビジョンづくりに取り組んでいただきたいというふうに思っていますが、またお話、御意見もございました福祉問題とか少子高齢問題、あるいは環境問題、こういったものなどへの取り組みは、11 年度の新市グランドデザインの中で検討するものというふうに思っております。いずれにしてもそういう意味では、本日はここに示されました皆様方の資料として提供してあります基本的な諸条件といいますが、そういったようなものの枠組みについての共通認識を持つということにおいて、その後の基礎調査の内容等について、これで大体いいだろうというふうな認識を持っていただくことができれば、きょうの目的を達するというふうなことでございます。

その中であくまでも人口フレーム、あるいは経済、土地利用、なかなかこれは漠然としている面もありますけれども、特に財政フレーム、そういったようなものについて皆さんにいろいろ御意見を交換していただいて、共通認識としてこの基礎調査を御理解いただくということが本日の目的だというふうに思っていますので、改めてまたちょっとくどくど余分なことを申し上げさせていただきますけれども、引き続き御意見をいただきたいと思っております。

後藤委員 今、議長の方からいろいろ整理していただきましたが、私これ見まして、やはりフレームとなると抽象的な面が多分にあるかと思います。しかしながら、私なりに検討した結果

におきましては、このような方向でいいではなからうかと、このように理解いたします。

議長 それからちょっと、将来の都市ビジョンのようなものと現実の計画と、それからそれを具体的にしていくためのフレームというふうなことがあるように思うです。それはここでこれを定めたらもう動かないということではなくて、やはり考え方やいろんなものがグランドデザインの策定の中で出てくれば、当然これは行きつ戻りつのような議論になる部分もあると。しかしそれは、そういつているから何もできないということじゃなくて、ここでやっぱり一つの考え方をまとめて、そして整理をして進んでいく過程の中で、また改めてもとに戻って問い直しをすることもあるというふうに思っていますので、完全にコンクリートしてしまうものではないというふうに思います。

守永了俊委員(清水市社会福祉協議会副会長) 私、物事を単純に考える方なんですけれども、人口が静岡が2で清水が1で、2プラス1で3だと。しかしそういうことじゃなくて、合併をするということは、新しいグランドデザインをつくるということは、その相乗効果で、それが7になり10になるということがなければ意味がないわけです。市民の意識調査を見ましても、大変興味深いものが出ておりますが、特に私清水側の人たちの意識調査に大変興味を感じました。どちらにしても、清水の住んでいる人たちが今より清水が、私たちがよくならなければ、合併する必要はないわけですから、そういう意味で私は両方のところが、清水と静岡がぶつかり合うところの一つのプロジェクトのようなものをひとつ真剣に考えていきたいなと思います。

特に東静岡駅ですか、あそこを中心にして私の方の草薙駅、こういうものを中心にした物の見方というものは、今それぞれの都市で事業をやっておりますけれども、これは変えていかなければならないものがたくさんあると思います。それからまたそのところを中心にして、北の方の方面に静岡市の方もたくさんの人口が張りついておりますし、清水の方の人口もたくさん張りついております。そういう人口の集積地帯、こういうものの考え方というのをうんと出していかなきゃならないと思います。

それからまた私の方では、北の方へ行きまして清水港のいろいろな大きな問題が、国の事業、県の事業、市の事業、いろいろありますが、あそこの地域の問題を考えてみましても、これはさらに隣の方の由比、蒲原、富士川、こちらを包含して、意識をしながら考えていかなきゃならない問題もたくさんあると思います。そういう点で、そういう相乗効果のあるいろいろな、あっ、これなら静岡と一緒になった方がいいなと、清水の市民が思えるのかどうか、そういう点を論議

を深めていきたいなというような感じがいたします。

議長 当然そういう方向に 11 年度になると進んでいくと思います。しかしその論議を深めるときに、やはり基本的な財政フレームや何かのことがないと、ただ夢みたいに挙げているだけじゃいけないということから、ここのところについての共通認識を一つ持ってもらうということで、きょうこのような会合を持っていると、こういうことだと思います。

南条 博委員（静岡市議会議員） 四つの基本的な都市フレームの設定については是とするものでありまして、新しくこの新市グランドデザインの策定についても、この方向でぜひお願いしたいと思うわけです。ただ、先ほど 6 号議案の中で、会議の開催 6 回以上、あるいは 10 回等々予定されておりますけれども、資料の作成等もあって、なかなか早くといっても時間的な関係もありますけれども、均等に 6 回を二月に 1 回ぐらいずつに割るのではなくて、やっぱり具体的な問題になると相当意見も出てくるだろうし、あるいは協議も時間がかかってくる問題あるかと思いますが、できるだけ早め早めに会議を進められるような準備をお願いしておきたいという意見を申し上げておきます。

議長 ありがとうございます。これは事務局の方でしっかり受けとめさせていただきたいと思っています。

入手 茂委員（清水市議会議長） 一つ希望を申し上げておきますけれども、合併すれば 71 万の大都市というか、そういうふうな都市を目指している。人口は僕はどこも減っているから、あんまりふえるということはないじゃないかというふうに、よくよくのことがなければふえることはないというふうに思いますけれども、とにかく大きくなることは事実、合併すれば大きくなることは事実。そういうことでございますので、それに対して行政庁が大きくなったじゃうまくない。これはもっと思い切った縮小をしていく、こういうものを一つ入れておかないと、これからの将来に対応できないんじゃないかというふうに思いますので、その辺のところをきちっとやっぱり入れておくべきだと、合併するならば入れておくべきだと、こんなふうに思いますので、よろしく願いいたします。

議長 効率化を図ってやっていくようなことというのは、これは当然あり得ることだというふ

うに思います。

織田委員 先ほどからいろんな御意見出てますけれども、この新市グランドデザイン策定に向けて、35 ページの部分ですけれども、それから先ほど大多和さんから言われた 17 ページの部分でございますけれども、これからどういうまちをつくっていくんだということで、概念というか、コンセプト的なものですが、特に 35 ページの一番上に書いてある部分は、例えば人口が合わさると人口集積がこうなるとか、静岡空港、第二東名、中部横断道と言われる、いわゆる国策でつくられる部分が 1 番には書いてあるわけですね。国策で静岡という地域はこうだから、やっぱり経済集積なりをしていかなければならないんだという議論は、ちょっと僕は違うような感じがするので、この 1 番はどうも我々の地域には当てはまらない、我々の目標とすると当てはまらないなというような感じもします。

それ以下、17 ページを見ていますと、非常にいい文でまとめられております。本当に夢のあるというかバラ色の都市だというふうに思いますけれども、若い者の意見として聞いていただきたいんですけど、じゃこの都市って一体何なんだという、特色は何なのという部分が非常に欠けているような感じもしますので、これから 10 年後、20 年後を考えてみたときに、本当に世界、地球儀の中で「静岡・清水ってここ」と言える地域になるような特色のあるまちづくりをぜひやっていきたいなというふうに、私の意見とすると、平べったい言葉ですが、世界に誇れる文化都市ですとか、そういう人ありき、人が住むところに文化があって、本当に住みやすく、文化があるまちというような、そういうコンセプトでまちをつくっていただきたいな。当然そこにはもちろん産業集積であったり、いろんなものもあってしかるべきですし、それについていくものだというふうに思います。それがまず大前提にあって、都市計画というようなものやあっていただきたいと思うので、ここにも「国際的な交流拠点都市」というふうにありますけれども、本当に世界に誇れる文化都市というような位置づけをここでうたっていただくとありがたいなというふうに思います。意見です。

副会長 まず、先ほど入手議長さんから、行革のことだというふうに思うんですけど、これは間違いなくできるはずですよ。というのは、市長部局の話をしますと、よくサービスが落ちるのではないかとこのように言われますけれども、そうじゃなくて、いわゆる現場の職員、福祉とかごみとか、そういう部門は全く減らすことはできないんですけど、いわゆる管理部門ですね、総務とか財政とか企画とか、両市そういう企画管理部門の職員は結構いるわけですが、これはやは

り、今のまま足したままで必要ないわけですから、そういう部分だけでもかなりコストを圧縮できることは間違いないというふうに思いますので、それは申し上げておきたいと思います。

それと今、織田さんから何か特徴をという話ですが、私も同感ですが、合併すると、私の基本的な考え方ですが、47万と24万、足して71万になるわけですが、静岡も清水もそれぞれやはり基本的な財産を持っているわけですね。都市としての大きな財産を持っているわけですが、要するに人口がそれだけふえますと、都市の可能性がものすごく高まると思います。24万なら24万までの可能性、47万の人たちですと今の可能性、これが一緒になると、やはり1足す1は3ぐらい、または4ぐらいに、いろんなものがレベルがアップしていく可能性は私は高まると思います。そういう可能性を高めていくということは、我々の次の世代にとって我々の責任だというふうに思うし、そういう点ではおっしゃったように、文化に限らず、福祉でも教育にしても、いろんな分野で私は71万になれば、今よりもレベルの高い、質の高いものを目指していく力がつくのではないかなと思います。それはやはりそういう条件が整うわけで、実際それが高まるかどうかは、その後の市民の力ということになると思うんですけども、そういうことは言えるのではないかなというふうに思っております。

そういう気持で新市のグランドデザインは、やはり今の両市よりも、やはりレベルの高い理想を求めたような形のものにしていただければ素晴らしいのではないかな。それを目指してやはり両市の市民がこれから頑張っていくと。その可能性が、力はあるんだということがわかるようなグランドデザインになると、みんなが喜ぶというか、意気が高まってくるじゃないかなという感じがいたします。

望月委員 取りまとめる前に少し御意見というか、考え方なんですけれども、この都市フレームの設定の中で、目標年次とか、要素というのが、15ページにありますけれども、特に目標年次は平成22年とするがということでありまして、いずれにしても先ほど議長が、実現可能なものをという計画を立てていくということでありまして。それはそれとしても、先ほど来から話にあったやっぱり長期的な部分を都市フレームの中に設定していくということでありまして、その長期的なフレームの年次というか、大体何年を想定して、グランドデザインをつくっていくときに実現可能な計画と、それから長期的な部分での少しは夢というか、そういうのを含めて二つの要素があると思うんですけども、この辺の表現の仕方を設定するときに、ある程度はっきりしていくべきだと。

ですから実現可能な計画と、それからやっぱり都市ビジョンとして夢の持てるような長期的な部分の表現を、どのように市民の皆さんにお示しすることができるかというところをある程度してから、策定の部分に入ってもらえればというふうに思うんですけども、その辺の確認をさせていただきたいなというふうに思います。

議長 私として、これは一般論として言えることではないかと思いますが、都市のビジョンというふうにこれを言った場合には、将来の理想、夢、希望、構想、こういったようなものがある程度頭の中で描きながら将来を考えるということにおいて、30年とか50年とか、そういったスパンの話になるであろう。これをまた実現するための計画づくりということになれば、やっぱり手が届く距離ということで10年ぐらいが一つのスパンになるのではないかと、こんなふうに私自身としては思っておりまして、そういう中であるならば実現可能、着実、そしてまた地に足がついた根拠を持ってというふうに言えるものになるのではないかと、こんなふうに思います。

望月委員 少し違うというか、私とすれば、ある部分では実現可能な部分と、それからやっぱり長期的な部分の二つが僕はあってもいいと思っています。ですから一つにしていくと、何か実現可能な部分だけが表に出て、将来のビジョンとか夢とかいう部分が消えていってしまうというような感じがしますので、二つを表に出しながら、それが実現可能な部分と、それから将来の夢とかビジョンという二面をもってあらかわすようなランドデザインでいいじゃないかというふうに思いますので、意見にしておきます。

議長 私の言葉が足りなかったかもしれないけれども、当然そういうことになると。都市ビジョンを示して、それを実現するための計画をつくって、10年間でここまでやると。それから先にまた進んでいくと。そしてまたビジョンが出てくれば、またビジョンが計画づくりに跳ね返ってきて、またそのビジョンを実現するために、どういふふうにして具体的にここから始めていくかというふうなことがまた出てくる。そういった繰り返しのようになるのではないかというふうに思います。

佐野委員 清水の佐野です。どうぞよろしくお願いいたします。今の望月委員のおっしゃったこと、非常に共感する部分がございます。本来、今回財政フレームがぐっとくるものですから、非常に各論に入りやすくなっているかなという気がするんですね。そうではなくて、この人口、

経済、土地利用フレームなど書かれているんですけども、すばらしい方向性が書かれていると思うんですね。この地域が長期的にそれを目指していく中で、平成 22 年という一つの時点でどこまで達成できるかという問題じゃないかと思うんですよ。

そう考えますと、やはり中長期的なものを加味するということでお話あったんですけども、もうこれ二つぐらいのデザインをつくるような感じで行っていかれないと、逆に現実的に新市建設計画に非常に近くなってくるかなと私思っているんですけども、それに中長期的なものを加えていくとかえって混同しやすくなって、また議論が難しくなってくるかなという気がするものですから、できましたらグランドデザインを二つつくっていくような感じをお願いできましたらというふうに思います。

議長 大方の皆さんは、この都市のグランドデザインの基礎調査については、共通認識を持っていただくようなことになってきているのではないかというふうに思いますけれども、そういったようなことで本日のこの基礎調査についてのまとめをしていただくということで。

村上委員 たびたび済みません。私は基本的にすべてのフレームについて異論はないのですが、ちょっと人口フレームの中で、もうちょっとここははっきりさせるべきではないかと思うし、強調をする必要があるなら強調する必要があるのではないかと思いますのは、先ほどの松浦委員の御質問にもありましたように、静岡・清水の人口は減っていくかもしれないけれども、周辺の都市はふえていると。この静岡・清水について言えば、合併すれば人口がふえるということになるのかというような御質問がありました。私も基本的にそんなにふえないだろうと、ここで書いてあるようにふえないだろうと思いますが、問題は、周辺都市がふえているというのは、この人たちが夜はそちらへ帰るけれども、昼間は例えば静岡・清水で働かれるという傾向があって、昼間人口を静岡・清水が支えているわけですね。したがって周辺都市にとって静岡・清水が衰退するということは、周辺都市の皆さんの職場の機会を奪うことだという認識をはっきり持たなくては、多分いけないだろうというふうに思います。

そのために先ほど守永さんもお話がありました、富士川町まで含めて考えなければいけないというようなお話がありました。同じような問題なんですね。静岡・清水が合併して、新たな高度社会をつくることによって、それが周辺の皆さんの生活文化に寄与できるかどうかという問題も含めて考えなくてはいけないだろう。それが周辺諸都市に対する静岡・清水が持つべき役割であり、責任だろうというような気がします。そういう意味で言いますと昼間人口をふやすと、人

口そのものはふえないかもしれないけれども、昼間人口をふやすような高度社会にしていく必要があるのかどうかという点が、いまいちこの中でははっきり明示されていないというところがありまして、そこが私はちょっと気になっています。以上です。

山田（静岡総合研究機構） 18日の説明会でも御説明申し上げましたけれども、71万という人口規模、これは出生率と移動率をある程度政策的にやって、頑張っても71万だろうと。ところが一方では都市的な集積ができると。きょうの資料もそうですけれども、例えば24ページで、交流人口をふやして、それで都市の質を高める上では、交流人口をふやすということが非常に重要であるということを提案させていただいております。

村上委員 交流人口という言葉は最後に出てきますし、私も見たんですけども、交流人口というももっと広義にとらえられるものですから、ここで言っている交流人口というのは、もっと直接的な意味で昼間人口と置きかえて構わないのかどうかという質問もあるわけです。そう考えてよろしいですか。

山田（静岡総合研究機構） 若干の、この絵が非常に広域的なことも含めて一度になっているものですから、具体的に言えば隣接の市町村も含めた交流人口の増加だということでございます。

議長 村上委員のおっしゃることを、よくまた踏まえて、新しいグランドデザインの策定調査のときには、もう少しそういった点もしっかりやっていくようにしていったらいいというふうに思います。

大多和委員 県の委員としてのちょっと補足をさせていただこうと思います。実は16ページに「県の新世紀創造計画の静清庵地域の目標度」ということを書いてございます。このことの中身を特に細かく説明する気はございませんが、ここでも県としてのこういう地域のイメージを描いたときに、県の場合も10年間の計画でございますが、2行目ですが、あくまでも人、物、情報が活発に交流していて、かつ県内ではここが中枢的な役割を担うだろうと、ましてその広がりというのは国際性もあるんだよというふうな形で書いてありますが、「新世紀創造計画」は、さらにこの静清地域というこの地域版のほかに、実は一番分厚い報告書を見ていただくと後ろに書いてあるんですが、2020年とか30年になると、もっと交流が活発になって、現在のいわゆる地域

というようなものというのが、ほとんど実態的な経済や生活の中ではなくなるだろうと。

つまりそうなってくると一種の境界線なしのボーダレスというような表現、言葉は使わなかったんですが、イメージで、県内は今まで 10 ぐらいの地域としてとらえて、その計画を書いています。そのころになると四つとか五つぐらいになってしまうだろうと。さらにその境界線というのは、どっちかに属するんじゃないくて、境界線というのはいろんなところにダブるだろうというような、この地域でいくと、東は富士周辺までそういう物事の圏域みたいなものは拡大するし、西は大井川なり空港まで延びていくかもしれない。もちろんその地域は、また今度はさらに西のところと境界線になってダブっていくと。

こういう非常に交流の活発な地域が静岡県の場合の県土を見た場合には、山も高い、山間地も多いところからいって、そのようなイメージの静岡県の県土構造になっていくんじゃないかということで、人だけではなくて、もちろん物もそうですし、情報もそうですけれども、そういった交流社会の中において圏域と使っていますが、そういう形で静岡県ができ上がっていくというふうに構想してありまして、そういう面ではその 10 年の計画のほかに、超長期の二、三十年先もそういうイメージを描いて、県の場合には総合計画をつくっているということについて、御参考までに御紹介をさせていただきました。

議長 ありがとうございます。まだまだ御意見もあるのかもしれませんが、一応きょう示されました新市のランドデザインの策定基礎調査の内容については、皆様方に一応一定の枠組みとしての御理解をいただいたというふうなことで、まとめとさせていただきたいと思いません。

報告事項 静岡市・清水市合併協議会だより創刊号

市民意識調査報告書

議長 それでは次に報告事項の静岡市・清水市合併協議会だより創刊号、それからまた市民意識調査報告書、これにつきまして事務局から一括して報告をさせていただきたいと思えます。事務局、お願いします。

事務局 報告させていただきます。初めに静岡市・清水市合併協議会だより創刊号についてでございますが、静岡市分として 16 万 5,000 部、清水市分として 7 万 4,000 部、協議会分として 1

万部、合計 24 万 9,000 部を作成しまして、その印刷費用につきましては部数により負担させていただいております。協議会分は協議会予算でございますが、世帯数により静岡市分、清水市分、それぞれの市の予算で配布させていただいているという意味でございます。

なお、この協議会だよりの配布先でございますが、静岡市・清水市の全世帯に 3 月 15 日に配布いたしております。また協議会分は、協議会委員を初め、3 月 6 日の協議会セミナー出席者や両市市議会議員、両市役所の庁内、それから出先機関に配布いたしております。残りの分につきましては、各種団体における会合等への配布や、他の自治体への配布など、さまざまな機会、場面で対応してまいりたいと考えております。また委員におかれましては、まとまった部数が必要な場合には、御連絡いただければお届けさせていただきたいと思っております。

次に市民意識調査報告につきましては、両市の交流状況、それから両市の相互理解度や静岡地域の将来ビジョン、主要施策、重点事業などを調査し、取りまとめたものでございます。これらの結果は貴重な情報として、来年度策定予定の新市グランドデザインに積極的に役立たせていただきたいと考えております。以上でございます。

議長 ただいま合併協議会だよりとそれからアンケート調査、市民意識調査のことについて報告がございました。何か御意見とか御質問等ありましたら、若干の時間をとりたいと思っております。

太田貴美子委員（清水市教育委員会委員） 私は市民意識調査報告書を変関心を持って、皆様の貴重なアンケート調査を拝見させていただきました。それでその後自由記載欄がございまして、そちらにも大変多くの各方面にわたっての御意見が出てまして、これもありがたく大変貴重な市民の御意見として、皆様の関心の深さもここで改めて知ったような気がいたします。何か拝読いたしましたら、清水の方の御意見の方が多いいのではないかなというようなちょっと気がいたしましたんですが、その辺も事務局の方で、この自由記載欄の静岡市と清水市の方の数字の比較がわかりましたら、お教えいただきたいと思います。

事務局 自由記載欄につきましては、省いたというのは一切なくて、件数が幾つということは整理はしてございませんが、皆さんたくさんの方が、大体 3 分の 1 くらいですか、アンケート答えていただいた方の 3 分の 1 くらいの方が、自由記載欄にびったり書いてきた方がいらっしゃいます。そういうのをなるべく委員の皆さんにお知らせしたいということで、数を左右させたものはありません。生のまま入れさせていただいた、そんな様相になっております。

仕分けはございません。ただ後ろに静岡分と清水分という格好で仕分けにはなっておりますが、ちょっと頭の方が静岡と書いてあるのが小さいのかもしれませんが、資料編の後ろの方ですが、ございますか。単純推計のすぐ後ろに当たりますが、それが静岡から始まって 30 枚ぐらいいって清水というふうな格好になってございます。見方が悪くて申しわけありません。

議長 よろしいですか。そのほかの方で何か。

織田委員 基本的なアンケート実施、市民意識調査報告書の取り扱い方法について、できれば合併協議会の委員の皆さんにお聞きしたいんですけども、先般の説明会でもありましたけれども、それぞれの設問に対しまして、例えば一番、この前も新聞に載っておりましたので、高い認識であるだとか、低い好感であるだとかいう部分の相手の都市のイメージの部分ですとか、その前の Jリーグとかイベントの参加率等の部分で、解説が入っております。これどこの部分でも解説が入っているわけですけども、この解説がただ単純にこの資料をもとに「低い」「高い」というふうにあらわしたのではなく、どちらかというところをこの作成した方の判断がされているようにも感じます。ですからこのアンケートを今後どういうふうに取り扱うのかという部分が、非常に重要になってくるかと思われまじくても、その辺を皆さんからもし御意見をいただければと思います。

それでその中で、新聞にも取り上げられたところで、22 ページの「高い認識、低い認識、低い好感、高い好感」とございますが、これ左の 20 ページ、21 ページにこの数値があるわけでございますけれども、清水市民が静岡市に対して高い認識を持っているという点線の一番上の部分が 51% なんですね。一方、静岡市民が清水に対して低い好感を持っているという一番左側の飛び出ている部分が 52.4% なんですよ。ですから 51% と 52.4% というのは、ほぼ同じ長さでないとおかしいはずなのに、左の辺の方が長くなっているというのは、目盛がおかしいのではないかとこのように私は思います。

それで一方、今年の 7 月のこの合併協議会の中でアンケート調査をやるということで、皆さん承認をしたわけですけども、集計分析については新市グランドデザイン策定委託業者もしくはリサーチ専門会社に委託するというところで皆さんの承認を得られております。ところがこれは合併協議会の名前で出されているものですから、もしできましたらこれは事務局でおつくりになられたのか、これを合併協議会の全体の意見として出すのかどうなのかというところを御議論をいただきたいと思うんですが、議長、よろしく申し上げます。

事務局 このアンケート集約の件でございますが、事務局と申しますか、両市の市長以下と申しますか、事務方でまずこれを分析集計したと。それでそのコメントを受けながら、両市の市長まで上げて確認をさせていただいたという格好になっております。ですからあくまでも今、織田委員さんがおっしゃるように事務局という格好で、きょう協議会へお出しをして、皆さんの御意見を賜って、最終的にはこのアンケート意識調査報告書ができ上がるのかなというふうな感じしております。あくまでも案ということで御理解いただきたいと思います。

織田委員 ありがとうございます。大変集計には御苦労されたと思いますし、外部委託をされないということで、経費的にも大分助かったのかなということで、御苦労であったというふうに思います。

ところがその解説につきましては、これをそのまま今後ランドデザインの基礎的な調査の標本にするのではなくて、それぞれ出てきたものの数字を我々は参考にさせていただきたいなというふうに思いますので、意見をさせていただきます。以上です。

佐野委員 よろしく申し上げます。今の織田委員の意見に賛成で、私もこのアンケート、数字の考察は非常にすばらしいなと思ったんですけども、例えば問 8 ですね、「就業就学先の主な交通手段は何ですか」という答えて、6 ページに「域内における公共交通網の不備不便さ」というふうに結論づけているんですが、ほかのアンケートの部分を見ますと、それほど公共交通網の不備不備を考察されている部分はないというふうに、それほどニーズが高くないんじゃないかというような感じがしたんですね。ですから総合的にこのアンケートを見て、各委員さんが意見を持てばよろしいのかなというふうに感じたんです。ですからここに書いてあります「必要があると考える」というふうに推測していただいているんですが、これは一つの考え方であるということで確認したいというふうに思うのと、やはりこれ合併協議会として市民の方に報告する書類ですので、どのようにランドデザインにこれが反映されてくるのかわからないんですが、この意見に関しては慎重に取り扱いを行った方がよろしいかというふうに思いますので、以上意見です。

議長 御案内のように、このアンケート調査は、タイトルにもありますように、この合併協議会が新市のランドデザインづくりに役立てようという目的を明確にして実施したわけでございます。この程度の分析やコメントを挿入するという点については、アンケートを実施した実施

主体として必要かつ妥当ではないかというふうに考えておりますが、全く集計結果を単に引き出して、文章を羅列して、数字だけを出すということで、コメントは一切しないというふうなことになるとすると、主催者側の意思というものがそこに全く示されない、ただ数字だけということになってきます。そこら辺の善し悪しというふうなこともあるように思いますが、いずれにしても当アンケートの調査の報告書は主催者であるこの協議会の名前で公にしていくということですから、協議会の了解了承を得るということで、もしコメントについてまずいということがあれば、御指摘をいただいて、これはこうすべきではないかというふうにしていただいて、ここで確認をしていただくということだろうと思います。使い方の中で考えていただくから、この程度はいいかなというふうに言ってくればそれでよいというふうに思います。

後藤委員 おっしゃるとおりでして、今議長がおっしゃいましたように、私は客観的に評価しているなど、そういうふうに理解しております。しかしながら、これパーセントやそういう部分だけでは、市民等に理解していただくには大変難しい面もあるかと思えます。ですから私はちょっと違った見方しちゃうと、そういう面があるかもしれませんが、全体それだけ見て、客観的に評価して、どっちかに偏った見方で書いていると理解はしておりません。そういう意味でもって、ある程度の評価というのはつけなければ、市民にもわかりやすくないという点では、ぜひともつけていただきたい。それと同時に、とんでもないよというものがあつたら、この委員会の中で指摘して、みんなでもって指摘し合えばいいことだなど、このように理解いたします。

織田委員 先ほど私が言ったのは、これをグランドデザインに生かす段階で、こういう数字をどういうふうに見るかということで判断させていただければよろしいというふうに私は判断したんですけれども、今の議長のお話ですと、これはあくまでも協議会が発表するものだからということで、ある意味、そういう意見も協議会の意見として発表するんだというようなお話、まとめ方でしたので、そういうことでよろしいでしょうね。

議長 というふうに私自身は思っていますが、これはあくまでも協議会として出すものですからね。

織田委員 わかりました。それであると、例えば先ほど言いましたこのグラフですけれども、22 ページです。「高い認識、低い認識、低い好感、高い好感」という部分の縦軸と横軸の目盛が

余りにも違い過ぎるという部分は御訂正をいただきたい。

それからもう1点、静岡も清水もそれぞれいろんなイベントを開催をしております。それぞれが広く市外にも呼びかけて動員というか、集まっていただくように努力をしているわけですが、例えば17ページの「それぞれの開催市以外の人々の参加率」というところがございませうけれども、上から7行目、「Jリーグの観戦率」、静岡市民の「行ったことない」が76.1%で、「Jリーグには二十何%が参加になっているんですけども、下から5行目に唯一「Jリーグの観戦は低率にある」というふうに断言をしているんですけども、清水でもJリーグの観戦率が60.5%ございませう。静岡は76.2% Jリーグの参加率がないわけですが、これで果たして清水に比べては静岡の市民はJリーグに行っていないとは言えますけれども、静岡市民がJリーグを観戦していないというふうな言われ方というのは、どうなのかなというふうに思いますので、こういう部分の御訂正をいただきたいというふうに思います。とりあえず2点、言わせていただきます。

事務局 今お尋ねの22ページですね、これの一番最初のフレームワークのところ、アンケートは実数というよりも、両都市の傾向を見たいということであってございませう。そうしますと、ここで菱形の高いやつでぐちゅぐちゅと比べて、これ同じ格好になるわけですが、どういう傾向にあるのかというのが、これ調査のテクニックでございませう、変な話で傾向を見たい、実数で比べるだけ、それじゃ単純集計だけでいいのかという話になっちゃうわけですよ。だものですから一つは傾向を見るためには、やはりそこら辺の強調点というのが、調査のテクニックとしては不可欠だろうというふうな感じで、私ども事務局はありました。そういう問題に対して、いやここがアンフェアだというふうなことというのは、今指摘されるまで、初めてそういう指摘を受けたものですから、ちょっとびっくりしているというふうな状態でございませう。以上です。

議長 わかりやすく少し出そうというふうなことの数字のとらえ方ということで、意識的なものはないと。

内田委員 やっぱり数字は数字として、厳然として客観的にあるわけで、ですから私はそのことを、そんな細かなことにこだわっていること自体がおかしいのであって、むしろそれはそれで素直に認めればいいと思うんですよ。だから、先ほどの意見だよ。静岡のある人の意見なんだけれども、だからそれはそれでいいんじゃないかな。むしろそういうことをこだわっていること自

体が、何となく私はちょっと、そんなことにこだわる必要はないんじゃないのかなというように思っていますので、むしろそれよりもそういう意識の差というのは、私はやっぱり厳然としてあるということを認め合った中で、これからどうするのかなということが基本であって、それをあたかもないとか、あるいはそれが差があるとかないとかいうことを議論していくことではないのではないかな。むしろ、それはそれとしてあることを前提として、これからどうしていくのかなということを議論していかなきゃいけないんじゃないかなというように思うんですよ。だからあんまりそんなことにこだわらない方がいいというように思います。

後藤委員 それはお互いさんのこととして、パーセントも書いてあることですので、その表が若干のちょっと拡大してあるような面とか、そういう面につきましては、余り意識しないでもいいんじゃないかと。それはお互いさんのこととして、認めるとか認めないとか、そんな問題じゃなくて、表はちゃんと書いてあるわけですので、それらを斟酌しながら考えていったらいいんじゃないかなと、そのように考えます。

青島委員 これも第1回のアンケートですし、現状認識、市民の方々の今どう思っているか、今どういう生活をというか、動きの実態をなさっているのかということのアンケートですから、私もこれは本当に参考にさせていただくという程度でいいんじゃないかというわけじゃないんですが、これから行われるアンケートというのは、恐らく我々のこの協議会でいろんなことを審議されていって、突っ込んだり、それに対してどう思うかというような段階がお聞きするような段階が、あるいは先に来るんじゃないかと思しますので、これは今の両市の市民の5,000人ぐらいの方々がどういう動きをなさっているかという一つの参考にするというような扱い方でよろしいんじゃないのかなというふうに考えております。

議長 織田さんの御意見は御意見として伺っておくということによろしいでしょうか。それからまた、もしこのアンケート資料などでいろんな意見が出たり、説明をしたり、質問が出たりしたときには、やっぱりそういったことも踏まえて、また皆さん方自身も御説明をしていただければありがたいと思います。

というようなことで、本日予定をいたしました審議事項、協議事項等については、以上をもってお諮りする事項、すべて終了するわけでございます。事務局の方で何かありますか。

事務局 事務局からお知らせいたします。次回の日程でございますけれども、次回第6回合併協議会は6月2日水曜日でございますが、新装になりましたグランシップにおいて1時半から開催を予定しております。後日、会議次第等につきましては御案内申し上げますので、またよろしく御協力をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

議長 それでは以上をもちまして本日の会議を終了することになりますが、昨年の4月に当協議会が設立されて以来、私が会長を務めさせていただくということで、静岡市長さんとの話し合いの中でやらせていただけてきました。本日まで5回の協議会、皆さん方の大変な御協力で、いろいろ新しいことを初めての経験、それからまた今まで両市でこういうメンバーで、こういうところに集まってお話をするというのも、なかなかなかったように思います。

そういう中で限られた時間ということもありましたり、立ち上がりで会議の運営、進め方などについての御協議をいただくような部分もありまして、現実的な協議になかなか入るまでに時間がややかったというふうなこともございました。しかしながら本日、新市グランドデザインの策定のための基礎的な調査などについての皆様方の基本的な御理解をいただいたということにおいて、新年度において立派なグランドデザインをつくっていくようなことになっていったら、大変ありがたいというふうに思っております、1年間この会議の運営に御協力をいただきました皆様方に改めてお礼を申し上げます、今後ともよろしく願いをさせていただきます、ごあいさつにさせていただきますと思います。

なお、4月からの新年度におきましては、静岡の小嶋市長さんに会長をお務めいただくというふうに考えておりますので、よろしくひとつお願いをさせていただきます。

副会長 新年度1年間、会長を務めるということになりますけれども、皆さんの御協力を得まして、円滑な議事ができますようによろしく願いいたします。ありがとうございました。(拍手)

事務局 それでは以上をもちまして、第5回静岡市・清水市合併協議会を閉じさせていただきます。皆さん大変御苦勞様でした。ありがとうございました。